

令和元年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 東京都下水道局	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 総務部広報サービス課広報担当 黒河 TEL : 03-5320-6515 FAX : 03-5388-1700 Mail : S4000009@section.metro.tokyo.jp
代表者氏名 下水道局総務部広報サービス課長 井上 俊治	

部門名 行政部門	事例名 東京地下ラボ（若者向け東京下水道発信事業）
-------------	------------------------------

事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等挿入して下さい）

東京地下ラボ ～下水道の魅力を、編集の力で若者が再発見～



<事業概要>

東京都下水道局が平成28年度に実施した都民意識調査によると、全体を通して下水道事業への関心度・認知度が低い、若い世代ほどその傾向が強い。次世代を担う若者に対し、より深く関心を持っていただくため、東京都では平成30年度から、大学生とともに東京下水道の新たな可能性や魅力を発信するプロジェクト「東京地下ラボ」を開始した。30年度は計32名の学生に参加してもらい、下水道の魅力を発信するツールとして、ZINE（雑誌）を制作した。

<具体的な取組>

①ワークショップ

都下水道局の事業や雑誌の「編集」をテーマとした講義を行い、その後、参加学生は各チームに分かれ、ZINEの制作についてディスカッションを行った。



②フィールドワーク

南多摩水再生センターを見学し、家庭や工場から排出される汚れた水が水再生センターできれいに処理され、多摩川へ放流される一連の流れを学習。その後、兵庫島公園へ移動し、多摩川に多くの植物や動物が生息していることを確認した。



③成果発表会

参加学生はワークショップやフィールドワークを通して学んだことを活かし、各チームごとにZINEを制作した。グランプリが1作品、審査員特別賞（メディア賞・ソーシャル賞）が2作品の計3作品が受賞した。発表されたものは、下水道とファッションをテーマにしたもの、汚水を処理する微生物を紹介するものなど、各グループで個性が光る内容であった。



【グランプリ受賞作品】
私と川と、サンドイッチ

⇒全8種類のZINE掲載ページ

<http://www.gesui.metro.tokyo.jp/business/kanko/chikalabo/index.html>

エントリー事例の特徴

- ・当プロジェクト実施の様子が数多くのメディアに取り上げられた（TV1件、業界紙誌2件、WEB51件）。また、CINRAやnoteといったSNSと相性の良いWEB媒体を活用し、若者へ広く取組状況を発信。
- ・当プロジェクトに学生を巻き込み、学生の自由な発想によって創られたZINEを活用することで、より効果的な情報発信を推進。（継続的に学生が取組を発信 note:<https://note.mu/tokyogesuido>）
- ・学生の自由な発想に期待する一方、どれも同じような作品ができてしまうのではないか、という懸念があった。しかし、それを見事に裏切り、計8種類のZINEはどれも個性的で従来にない切り口から下水道の魅力を伝えており、下水道が持つポテンシャルに改めて気づかされた。

付属資料の提出

あり ・ なし （どちらかに○）